

客観的評価指標（案）及び調書（案）

令和○年度 京都市公共事業評価(再評価)事業調書

No. ○

1 事業の概要

担当: ○○局○○部○○○○○○課

事業名	○○事業 ○○○○線	事業区間	○○区○○○○○町 ~ ○○区○○○○○町
事業の目的 及び概要	<u>○○○な○○○整備（事業のキャッチフレーズ）</u>		
	<主な事業効果> ・渋滞解消 ・災害時のリダンダンシー※確保 ※多重化、代替手段・備えがある状態		
延長又は面積：L=1,000m		代表的な幅員：W=20m	用地買収面積：A=10,000m ² 全体事業費：C=100.00億円
箇所図 概略図 <整備のポイント> ・両側に歩道を整備（幅3m） ・車道を拡幅（Om→Om） 説明資料（箇所図・概略図・断面図等） 令和○年度まで 令和○年度 令和○年度 令和○年度以降			

2 事業の必要性等に関する視点

〇〇事業 〇〇〇〇線

(1) 事業の進捗状況

都市計画決定	昭和〇〇(西暦)年度	全体事業費		100.00 億円	令和2年度まで (決算額)	令和3年度 (決算額)	令和4年度 (予算額)	令和5年度以降	進捗率(実施数量) 完了／全体
事業採択	平成〇〇(西暦)年度	(内訳)	工事費	40.00 億円	20.00 億円	5.00 億円	5.00 億円	10.00 億円	道路整備 20.0 % 200m/1,000m
用地着手	平成〇〇(西暦)年度		用地費	50.00 億円	30.00 億円	1.00 億円	1.00 億円	18.00 億円	用地買収 60.0 % 6,000m ² /10,000m ²
工事着手	平成〇〇(西暦)年度		その他 (設計費等)	10.00 億円	5.00 億円	0.50 億円	0.50 億円	4.00 億円	—
完成予定	前 平成〇〇(西暦) 変更 令和〇〇(西暦) 年度 (事業認可最終年度)	年度別事業費		—	55.00 億円	6.50 億円	6.50 億円	残事業費	—
		進捗率 (執行事業費)		—	55.0 %	61.5 %	68.0 % (見込み)	32.00 億円	
進捗状況 事業計画の変更等									

(2) 事業を巡る社会経済情勢や地域状況等の変化

--

(3) 上位計画における事業の位置付け等

計画名	事業の位置付け(事業によって推進する施策・取組)
はばたけ未来へ！京プラン2025(京都市基本計画)	
京都市都市計画マスタープラン	
〇〇整備方針	
〇区基本計画	

(4) 指標による評価

(便益と費用の単位:億円)

事業の投資効果	費用便益分析 B／C	=	1.00	便益(B)	=	100.0	費用(C)	=	100.0
---------	------------	---	------	-------	---	-------	-------	---	-------

3 事業進捗の見込みの視点

事業の実施のめど 進捗の見通し等	
---------------------	--

4 対応方針案

※該当する項目は、□を■に変更

対応方針	☐ 事業継続 ☐ 事業中止 ☐ 事業休止 ☐ 事業再開
理由	

【参考資料等】

説明資料（写真・図等）

《客観的評価指標》

〇〇事業 〇〇〇〇線

(1) 京都市基本計画における政策の体系と政策分野

うるおい	1 環境	2 人権・男女共同参画	3 市民生活とコミュニティ	4 市民生活の安全	5 文化	6 スポーツ	
活性化	7 産業・商業	8 観光	9 農林業	10 大学	11 国際		
すこやか	12 子ども・若者支援	13 障害者福祉	14 地域福祉	15 健康長寿	16 保健衛生・医療	17 学校教育	18 生涯学習
まちづくり	19 危機管理・防災・減災	20 歩くまち	21 土地・空間利用と都市機能配置	22 景観	23 建築物	24 住宅	25 道と公園・緑
	26 消防・救急	27 くらしの水					

(2) 事業の効果や必要性を評価するための指標 《道路・街路事業》

※該当する指標は、□を■に変更し、指標チェックの根拠を記入
計画変更等により、チェックが外れる場合は、■を□に変更し、外した理由を記入

政策分野とキーワード			指標(期待される効果) ※赤字は重点項目	指標チェックの根拠又は外した理由
うるおい	環境	環境の保全・回復	☐ 自動車からのCO2(二酸化炭素)、NOX(窒素酸化物)、SPM(浮遊粒子状物質)の排出量削減	
			☐ 自動車からの騒音の低減効果	
			☐ 市街地における雨水浸透を推進、ヒートアイランド現象の緩和や健全な水循環系の回復に寄与	
			☐ 都市の緑化を推進、ヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化防止に寄与	
	市民生活の安全	交通事故防止の推進	☒ 人と車両との分離等、安全な歩行空間を確保	
			☐ 走行位置の整理や見通し不良・視認性の改善等、交通安全性が向上	
活性化	観光	京都観光の振興	☐ 主要な観光スポットへのアクセスが向上	
			☐ 観光に関わる利便性向上やイメージアップ等、京都観光の振興に寄与	
すこやか	障害者福祉	ユニバーサルデザインの普及促進	☐ すべての人にとって安心・安全で利用しやすい、バリアフリーな公共施設を提供	
	学校教育	通学路の安全対策	☐ 通学路・児童の移動経路における交通安全性が向上、または新たな経路として利用	
まちづくり (1/2)	危機管理・防災・減災	地域防災力の向上	☐ 避難所・緊急避難場所・広域避難場所・避難救助拠点へのアクセスが向上	
			☐ 緊急輸送道路としての信頼性(災害時における安定的な通行等)が向上	
			☒ 主要な道路の通行止め時、代替道路として利用(リダンダンシーの確保)	
			☐ 事前通行規制区間(大雨による通行止め)等における通行止めの発生リスクの低下	
	歩くまち	公共交通優先のまちづくり	☐ 鉄道駅・バスターミナルへのアクセス向上や交通結節機能の強化等、公共交通利用を推進	
		歩いて楽しいまちづくり	☐ 路線バスの時間信頼性(定時運行)の向上や新路線の設置等、バスの利便性が向上	
		自転車利用環境の向上	☐ ゆとりある歩道幅員や路面の整備等、快適な歩行空間を提供	
			☐ 歩行者との分離や走行位置の見える化等、自転車の走行快適性が向上	

まちづくり (2/2)	土地・空間利用と都市機能配置	土地利用の促進	☐ 沿道での開発等、土地利用の促進	
		魅力と活力のある都市づくり	☐ 地域資源の活用等、特色あるまちづくりに貢献	
	景観	景観の保全・創出	☐ 景観を阻害する要因の除去や自然・歴史的な景観との調和等、良好な景観の保全・創出	
	道と公園・緑	円滑な移動・輸送の確保 都市環境の向上	☐ 幅員狭小・離合困難な箇所等の解消、または当該箇所の回避が可能	
			☐ 地域の主要渋滞箇所における渋滞緩和等、交通の混雑状況を改善	
			☐ 高速道路・国道等と連携した広域的な道路ネットワークを形成、または補完路として利用	
			☒ 移動時間の短縮・ばらつき(渋滞による遅延等)の縮小等、到着時間の信頼性が向上	
			☐ 重要物流道路の整備等、安定的な物流・輸送の確保に寄与	
			☒ 自動車交通の分散・転換や渋滞緩和等、生活道路に流入する通過交通を抑制	
			☐ 歩行者との分離や路面の整備等、自動車の走行快適性が向上	
			☐ 地域の主要な施設(区役所等の公共施設や大規模な生活利便施設等)へのアクセスが向上	
	消防・救急	安心・安全なまちづくり	☐ 救急医療施設(二次)へのアクセスが向上	
			☐ 袋路や細街路、密集住宅地等で、消防・救急活動に支障がある地域の解消	
☐ 火災時の延焼遮断帯としての効果				
くらしの水	雨に強いまちづくり	☐ 市街地における雨水浸透を推進、雨水の流出を抑制		
その他の効果や必要性 (事業特有の効果・新たな指標の追加等)		☐		
		☐		
		☐		
特記事項				

令和〇年度 京都市公共事業評価(再評価)事業調書

No. 〇

1 事業の概要

担当: 〇〇局〇〇部〇〇〇〇〇〇課

事業名	河川事業 〇〇〇〇川	事業区間	〇〇区〇〇〇〇〇町 ~ 〇〇区〇〇〇〇〇町
事業の目的 及び概要	〇〇〇な〇〇〇整備（事業のキャッチフレーズ）		
	＜主な事業効果＞ ・ 浸水被害の軽減		
延長又は面積：L=1,000m 代表的な幅員：W=20m 用地買収面積：A=10,000m ² 全体事業費：C=100.00億円			
箇所図 概略図 ＜整備のポイント＞ ・ 水際の植生を促進 説明資料（箇所図・概略図・断面図等） 令和〇年度まで 令和〇年度 令和〇年度 令和〇年度以降			

2 事業の必要性等に関する視点

河川事業 ○○○○川

(1) 事業の進捗状況

都市計画決定	昭和〇〇(西暦)年度	全体事業費		100.00 億円	令和2年度まで (決算額)	令和3年度 (決算額)	令和4年度 (予算額)	令和5年度以降	進捗率(実施数量) 完了／全体
事業採択	平成〇〇(西暦)年度	(内訳)	工事費	40.00 億円	20.00 億円	5.00 億円	5.00 億円	10.00 億円	河川改修 20.0 % 200m/1,000m
用地着手	平成〇〇(西暦)年度		用地費	50.00 億円	30.00 億円	1.00 億円	1.00 億円	18.00 億円	用地買収 60.0 % 6,000m ² /10,000m ²
工事着手	平成〇〇(西暦)年度		その他 (設計費等)	10.00 億円	5.00 億円	0.50 億円	0.50 億円	4.00 億円	—
完成予定	前 平成〇〇(西暦) 変更 令和〇〇(西暦) 年度 (事業認可最終年度)	年度別事業費		—	55.00 億円	6.50 億円	6.50 億円	残事業費	—
		進捗率 (執行事業費)		—	55.0 %	61.5 %	68.0 % (見込み)	32.00 億円	
進捗状況 事業計画の変更等									

(2) 事業を巡る社会経済情勢や地域状況等の変化

--

(3) 上位計画における事業の位置付け等

計画名	事業の位置付け(事業によって推進する施策・取組)
はばたけ未来へ！京プラン2025(京都市基本計画)	
京都市都市計画マスタープラン	
○○整備方針	
○区基本計画	

(4) 指標による評価

(便益と費用の単位:億円)

事業の投資効果	費用便益分析 B／C	=	1.00	便益(B)	=	100.0	費用(C)	=	100.0
---------	------------	---	------	-------	---	-------	-------	---	-------

3 事業進捗の見込みの視点

事業の実施のめど 進捗の見通し等	
---------------------	--

4 対応方針案

※該当する項目は、□を■に変更

対応方針	☐ 事業継続 ☐ 事業中止 ☐ 事業休止 ☐ 事業再開
理由	

【参考資料等】

説明資料（写真・図等）

《客観的評価指標》

河川事業 ○○○○川

(1) 京都市基本計画における政策の体系と政策分野

うるおい	1 環境	2 人権・男女共同参画	3 市民生活とコミュニティ	4 市民生活の安全	5 文化	6 スポーツ	
活性化	7 産業・商業	8 観光	9 農林業	10 大学	11 国際		
すこやか	12 子ども・若者支援	13 障害者福祉	14 地域福祉	15 健康長寿	16 保健衛生・医療	17 学校教育	18 生涯学習
まちづくり	19 危機管理・防災・減災	20 歩くまち	21 土地・空間利用と都市機能配置	22 景観	23 建築物	24 住宅	25 道と公園・緑
	26 消防・救急	27 暮らしの水					

(2) 事業の効果や必要性を評価するための指標 《河川事業》

※該当する指標は、□を■に変更、指標チェックの根拠を記入
計画変更等により、チェックが外れる場合は、■を□変更、外した理由を記入

政策分野とキーワード			指標(期待される効果) ※赤字は重点項目	指標チェックの根拠又は外した理由
うるおい	環境	環境の保全・回復	☒ 多様な生物が生息・生育・繁殖する自然環境の保全・再生	
			☐ 都市の緑化を推進、ヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化防止に寄与	
	市民生活とコミュニティ	地域コミュニティの活性化	☐ 地域の交流機会が増える、居場所や活動の場として利用 ☐ 地域活動への参加を促す、きっかけ・仕組みづくりに寄与	
活性化	観光	京都観光の振興	☐ 観光に関わる利便性向上やイメージアップ等、京都観光の振興に寄与	
	農林業	事業環境の安定	☐ 浸水被害の発生リスクの低下、経営の安定に寄与 ☐ 農林業関連施設の更新等、作業環境の安定に寄与	
まちづくり (1/2)	危機管理・防災・減災	《水害の被害指標》	☐ 過去に発生した浸水被害 《○回》 ☐ 浸水想定区域の面積推計 《○ha》 ☐ 浸水想定区域の人口推計 《○人》 ☐ 浸水想定区域の要援護者の推計 《○人》 ☐ 浸水想定区域の医療・社会福祉・防災拠点施設 《○箇所》 ☐ 浸水想定区域の主要な道路・鉄道 《○○線》	
	歩くまち	歩いて楽しいまちづくり	☐ 河川沿いの散策道の整備等、水辺の歩行空間を提供	
	土地・空間利用と都市機能配置	土地利用の促進	☐ 浸水被害の発生リスクの低下、土地利用の促進	
		魅力と活力のある都市づくり	☐ 地域資源の活用等、特色あるまちづくりに貢献	

まちづくり (2/2)	景観	景観の保全・創出	☐ 景観を阻害する要因の除去や自然・歴史的な景観との調和等、良好な景観の保全・創出	
	道と公園・緑	都市環境の向上	☐ 事業区域内の道路・公園等のインフラを再整備、都市環境の向上に寄与	
	消防・救急	安心・安全なまちづくり	☐ 消火用水として利用等、火災時の消防活動をサポート	
			☐ 火災時の延焼遮断帯としての効果	
	くらしの水	雨に強いまちづくり ≪整備計画の指標≫ 水と共に生きるまちづくり	■ 流域の治水安全度が向上	
			☐ 整備目標(計画流量)に対する、整備前の流下能力 ≪最も厳しい部分で、約〇%≫	
			☐ 浸水被害の発生リスクの低下、不安の軽減効果	
			☐ 大雨時に雨水を一時的に貯留等、雨水の流量調整効果	
			☐ 関連する雨水幹線や下水道の整備と連携、総合治水対策を推進	
			■ 親しみやすい水辺空間の創出	
その他の効果や必要性 (事業特有の効果・新たな指標の追加等)		☐		
		☐		
		☐		
特記事項				